

1 センターサイディング標準施工法

1-14 胴縁下地組み

1) 胴縁を使用する目的

- センターサイディングの留付下地(センターサイディングは原則として胴縁だけで保持する)。
- 通気空間の確保。
- 下地の不陸や段差の調整。
- 下地の動きとセンターサイディングの動きの違いを緩和し、釘打ち部分のひび割れを低減させる。
- 外壁面からの雨漏りを防止(等圧空間の確保によって雨水の吸引漏水を防止)。
- 躯体の沈み込みによる帯金物などの補強金物の変形や突き出しによる影響を防ぐ。

2) 胴縁の種類・寸法

※防耐火構造とする場合は、防耐火構造認定書の別添の通りとしてください。

- 胴縁の厚みは、18mm以上としてください。ただし、躯体(垂直に組まれている柱やスタッドなど)に沿わせて留め付ける場合は、15mm(ベイツガなど)でも可とします。

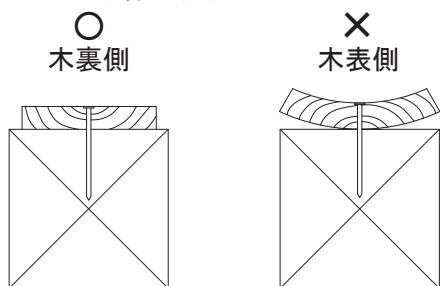
厚み18mm以上で使用可	スギ、エゾマツ
厚み15mm以上で使用可(※1、※2)	ベイツガ、アカマツ

※1 縦胴縁。 ※2 耐力面材がある場合の横胴縁。

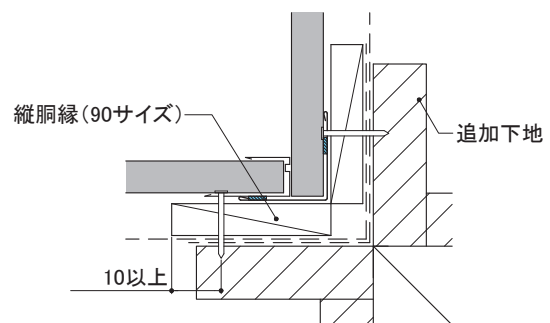
他の材質については、スギ18mm厚、ベイツガ15mm厚同等の保持力を確保した材とします。
また、端部割れなどが生じやすい材は使用できません。

- 胴縁は曲がりのない乾燥材を使用します。曲がりがある場合は矯正し、釘を確実に躯体に留め付けます。
- 木胴縁の幅は45mm以上を標準とし、出入隅部や開口部周りには倍幅の90mmを使用します。
また、横張り施工の左右接合部、縦張り施工の場合の上下接合部も90mm幅の胴縁を使用します。
ただし、段差が発生しないような調整を施す場合は45mm幅の2本組みを可とします。
- センターサイディングを留め付ける場合、胴縁の端あき距離は10mm以上とします。
- 縦胴縁90mm幅を留め付ける場合は、胴縁の木裏を外壁側に向けて、規定の釘またはビスで確実に留め付けます。

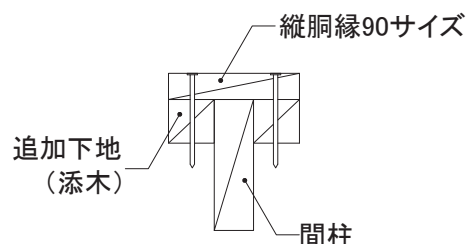
< 胴縁の反りについて >



木材は乾燥が進むと木表側に反る傾向があります。胴縁取り付け時は、木裏側から留め付けてください。

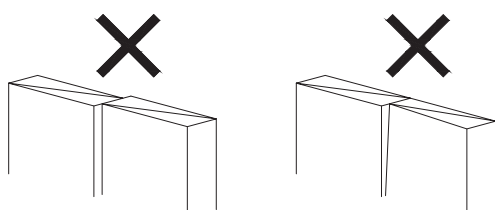


< 縦胴縁90サイズの添木 >



縦胴縁90サイズの割れ・反りが懸念される場合は、追加下地を設けてください。

< 45mm幅2本組みの場合の注意点 >



躯体の不陸による段差

厚みの違いによる段差